

檀原市財政危機宣言後の状況と今後について

私が、令和3年3月、令和3年度施政方針演説において檀原市財政危機を宣言したのは、新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な歳入不足が見込まれ、令和3年度当初予算を編成するために、市の貯金にあたる財政調整基金を約13億円も取り崩さなければならないという、極めて厳しい財政状況に強い危機感を抱いたためです。

市の貯金を使い果たしてしまうと、新たな行政需要だけでなく、不測の事態にも対応できなくなってしまいますので、危機宣言後、市民の皆様のご理解とご協力のもと、全庁をあげて歳入確保と歳出削減に取り組んでまいりました。

令和3年度の決算は、当初見込んでいたほどの税収の落ち込みとはならず、地方交付税等の歳入が増加したことや歳出削減などにより、令和2年度に続き黒字となりました。しかし、この黒字決算は、コロナ禍という国難に対する国の支援があったことが大きな要因であると考えております。

今後も、歳入においては、市税の大幅な伸びは期待できず、一方、歳出においては、少子高齢化による社会保障関連経費等の増加は避けられず、小中学校の長寿命化をはじめとした公共施設整備費用の大幅な増加も見込まれており、本市の財政が危機的な状況にあることに変わりはありません。

私が目指しているのは、貯金（基金）に依存することなく予算編成ができるような、持続可能で健全な財政運営です。そのような状況となるよう、行財政改革を継続し、「財政危機」からの早期脱却を図ります。

コロナ禍が長期化するなか、物価高騰等の影響も懸念されますが、社会経済情勢の変化を見据え、市民の皆様のご命と暮らしを守るため、また、市民の皆様が必要とする施策が行えるよう、一層取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年10月20日
檀原市長 亀田 忠彦